

## ▼オータイロカプセル [内]

【重要度】 【一般製剤名】 レポトレクチニブ Repotrectinib [TPX-0005] 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [TKI]

【単位】 ▼40mg/Cap

【常用量】 1回 160mg を1日1回 14日間, その後1回 160mg を1日2回 [適宜減量]

14日間で忍容性が認められない場合は増量しない

【用法】 1日1回

【透析患者への投与方法】 常用量 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量 (1)

【特徴】 ATP 競合性の ROS1, TRKA/B/C 及び ALK を阻害する経口の低分子チロシンキナーゼ阻害剤。

【主な副作用・毒性】 めまい・運動失調・認知障害などの中枢神経系障害, 間質性肺疾患, 味覚不全, 錯覚, 末梢性ニューロパチー, 頭痛, 視覚障害, 消化器症状, 筋肉痛など

【安全性に関する情報】

【吸収】 食事により吸収増大 (1)

【F】 45.7% (1) ABCG2 や CYP3A4 により F が制限 (Li W, et al: Pharmaceutics 2021 PMID: 34834176)

【tmax】 3.8jhr (1)

【代謝】 主に CYP3A4 によって代謝されグルクロン酸抱合 (1) OATP1A/1B で肝取り込み (Li W, et al: Pharmaceutics 2021 PMID: 34834176)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 0.56% [po, 672hr まで] (1) P-gp, BCRP の基質 (1)

【CL/F】 13.3~16.1L/hr [健常人] (1)

【t1/2】 46hr (1)

【蛋白結合率】 95.4% (1)

【Vd】 264L/body [iv] (1) ABCB1/ABCG2 が脳内移行を制限 (Li W, et al: Pharmaceutics 2021 PMID: 34834176)

【MW】 355.37

【透析性】 資料なし (1) 透析性は低いと思われる (1)

【O/W 係数】 3.49±0.02 [1-オクタノール/水系] (1)

【相互作用】 CYP3A4 を誘導するため基質薬物の血中濃度低下のおそれ (1) CYP3A4 阻害剤・誘導剤・P-gp 阻害剤との併用注意 (1) UGT1A1 阻害 [誘導の可能性] (1)

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20241022

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。